

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100096
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	くうぶほうむ54番地 2階
所在地	松山市水産町54番地
自己評価作成日	平成27年 8月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「利用者さんと一緒に作る暮らし」を合言葉に、料理や、おかしづくり、共有空間のアレンジなど、みんなで楽しみながら暮らしに花を添えています。地域に住まい、幼稚園や小学校に子供らが通う職員も多く、幼稚園や小学校、中学校そして、子供たちを含め、地域との交流という面では、有利な条件がそろっています。この強みを生かして、さらに、地域との関係を深めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 近所にある天満宮の夏祭りには出店を出し、地域との交流の機会を作っている。利用者は、職員と一緒に店番をした。秋祭りには、みこしや獅子舞が事業所に来る。地域社協が行う「福祉のつどい」に出かけて、利用者も「パン喰い競争」や「玉入れ」等に参加した。今年は「がんばったで賞」をもらい、賞状を居間に飾っていた。高校生の介護実習を受け入れており、昨年実習に来た高校生が法人に就職している。
- 地域の公民館で行われる「こだまの会」や「小野サロン」に出かけられるよう支援しており、利用者は手芸をしたり、カラオケや囲碁を楽しんでいる。近隣にある系列事業所の利用者が誘いに来てくれて、一緒に参加することもある。
- 仲良しの利用者の方に手作り料理を振る舞い喜んでもらいたいと思っている方があり、仲良しの方の好きな食材を使ったメニューを考えて買い出しに行き、調理できるような支援している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 ぐるうぷほうむ54番地

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 山花 久美子

評価完了日 平成 27年 8月 12日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 施設内に理念の言葉を掲げ、常に初心の気持ちを大事にしている。また、理念に基づくケアが出来るように、ミーティングや勉強会を通して職員間で話し合い、確認・共有して日々の利用者との関わりの中で実践につなげるように努めている。	
			(外部評価) 法人全体で「人生の継続性を大切に自分が自分として生きていく」と理念を掲げ、玄関や事務所に掲示している。新人職員の研修時や、日々の中でもケアを検討する際には、理念に立ち戻って考えるよう話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事や学校の行事等に積極的に参加している。近所への散歩や買い物などに出かけ、近隣の方と挨拶を交わし交流を持つようにしている。また、近隣にあるぐうぶほうむ3丁目棟敷地内にて「青空」を開き、利用者と職員が地域の方と交流できる場を設けている。	
			(外部評価) 近所にある天満宮の夏祭りには出店を出し、地域との交流の機会を作っている。利用者は、職員と一緒に店番をした。秋祭りには、みこしや獅子舞が事業所に来る。地域社協が行う「福祉のつどい」に出かけて、利用者も「パン喰い競争」や「玉入れ」等に参加した。今年は「がんばったで賞」をもらい、賞状を居間に飾っていた。高校生の介護実習を受け入れており、昨年実習に来た高校生が法人に就職している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方に施設見学や運営推進会議への参加に来設して頂く事で、認知症の方の日常生活を見て貰い理解を頂くようにしている。また、地域の中学校の職場体験や学生の実習の受け入れも積極的に行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の取組内容や行事の報告などを行っている。地域の方やご家族の意見を頂き、利用者への支援に活かせるよう、またより良い施設の環境作りに繋がるよう努めている。	
			(外部評価) 会議には、民生委員や町区長、ご家族等の参加がある。利用者も参加して事業所での生活の様子や感想等を話される。区長からは、地域の行事等を教えてもらっており、利用者も参加できるように支援している。利用者の生活の様子について、パワーポイントを使って事例紹介を行ったこともある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、施設内の様子を見ていただくようにしている。また、介護認定の訪問調査の際に、担当者へ出来るだけ詳しく利用者の日々の暮らしぶりを伝えたり、常に連携が取れるよう何かあった時には報告や相談等協力関係を築くよう取組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議時、避難訓練に参加した市の担当者の方からは、「職員が利用者に声を掛け続けているのがよかった」等と感想があった。又、行事報告については、「皆さん外出されていて良いですね」等の感想があった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者が外出しそうな様子の時には、こちらより声かけをしたり、出ていく時には一緒について行き、安全面に配慮しながら自由な暮らしが出来るように努めている。 身体拘束について、勉強会で話し合いを行っている。	
			(外部評価) 職員は、内部研修の中で、「身体拘束について」学んでおり、「ベッド柵の使い方」等、疑問があれば、管理者に聞いたり、ミーティングで取り上げて職員間で話し合い、拘束をしないケアが徹底できるよう取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			勉強会やミーティング等で、虐待について学んだり、不適切なケアがされていないか、話し合ったり確認したりして虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			対応が必要と思われる利用者が今までいなかったが、対象者が出てきた事もあり、改めて勉強する機会を持ち、理解を深めるよう随時説明やアドバイスを行い利用者の支援に繋がるよう支援していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			十分な説明をさせてもらい契約をさせていただいている。また、改定の場合には事前に説明の文章を発送し、ご家族等の不安や疑問点を尋ね、改めて同意を頂くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			毎月お手紙にて利用者の日常の暮らしぶり等をご家族に報告し、近況を伝えるようにしている。また、ご家族と電話や来訪時に話しをする中で、何でも言って貰えるような雰囲気作りに努めている。出された意見や要望は反映できるように努めている。	
			(外部評価)	
			系列事業所合同で季刊紙を発行していたが、現在は休止している。毎月、ご家族に書類を送付する際には、利用者の様子を手紙にして同封している。来訪のないご家族へは、法人専務がメールや電話で連絡している。	ご家族と一緒に活動するような機会作りや、ご家族同士が交流するような機会作りにも工夫してはどうだろうか。又、食事、入浴、外出等、事業所の取り組みをより具体的に知ってもらいながら、一緒に利用者の暮らしを支えていけるような取り組みにつなげていってほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 朝の申し送りやミーティングを通して、意見の交換をしたり、要望を聞いたりしている。また、日頃からコミュニケーションをとるように心掛け、気にかかることなど話しやすい雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 月末に職員ミーティングを行い、利用者個々のケアや行事予定について話し合っている。職員は、2ヶ月に1回行われる地区のグループホーム交流会に参加して、他事業所と勉強会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者も現場に来ており、利用者や職員に声かけをし、職員の業務や悩みを把握するように努めている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に行く機会を設けている。研修に参加した職員が、ミーティング等で内容を報告し、情報を共有できるようにしている。また、全職員に対して、勉強会を行い指導を行っている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 交流会に参加して意見交換をしたり、外部研修の時に交流や勉強を行っている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の求めていることや不安を理解出来るように努めている。日々の勘案や声かけを大切に、本人の安心が得られるように関係作りに努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			ご家族の不安なことや困っていることなど、しっかりと話しを聞き、相談に乗ることで少しでも気持ちが楽になったり落ち着いたり出来るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			ご本人やご家族の思いや要望・状況を確認し、出来る限りのサービスが行えるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			本人の思いや暮らしの意向などを理解し、思いを共感しながら、共に支え合える関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			こまめにご家族に連絡し、日頃の様子や健康状態などをお伝えしたり、面会時にご家族の思いを聞いたりしながら、本人を共に支えていく関係が築けるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			本人の思いを大切にしながら、馴染みの深い方との手紙のやり取りをしたりして、知人や友人が訪ねて来やすいように配慮している。	
			(外部評価)	
			地域の公民館で行われる「こだまの会」や「小野サロン」に出かけられるよう支援しており、利用者は手芸をしたり、カラオケや囲碁を楽しんでいる。近隣にある系列事業所の利用者が誘いに来てくれて、一緒に参加することもある。学生時代の友人に手紙を出す方には、職員が切手やハガキを用意したり、投函してサポートしている。ドライブ時に、ご自分で投函する場合もある。「以前お世話になった」と言う方が利用者の方の毎日来られて、食事や入浴のお世話をしているようなケースもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる環境を作る等、一人ひとりが孤立しないように利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役として支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、必要に応じて支援や相談に応じたりするように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で声をかけたり、表情や言葉などから意向を把握できるように努めている。また、本人や職員だけでは決められない事は、家族にも相談しながら利用者さんにとって一番良い支援を考え行っている。	
			(外部評価) 日々の生活の中でご家族やご本人から聞いたこと、ADL、生活の特性等をフェイスシートに記入して、年に一回書き換えている。夜勤時等、職員は利用者の様子を見て、1対1で手を握りながらゆっくりとお話を聞くこともあり、利用者の方はよくお話をされるようだ。	利用者一人ひとりが、その人らしい暮らしを継続していけるように、利用者の思いや意向の把握に向け、職員が知り得た利用者の情報を蓄積していくようなアセスメントにも工夫してはどうだろうか。職員間で情報を共有し、介護計画につなげていってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんをより知るために、ご家族や友人等から話しを聞いたり、これまでの暮らしや生活環境等を把握し、全体像を知るよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、日常の行動や様子などから見て、現状の把握が出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人に日頃の関わりの中で希望をお聞きしたり、面会時や電話での近況報告の際にご家族の思いや要望を聞いたりして反映させるようにしている。また、介護記録には、介護計画の目標を添付し、計画に沿った支援が出来るようにおこなっている。毎月のミーティングや日々の申送りの際には、アセスメントを含めた話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者が、「どのように過ごしたいか」「生きがいは何か」等を考えながら、介護計画作成に取り組んでいる。ケアプランについて話し合う際、利用者も参加することがある。毎月、ミーティング時にケアカンファレンスを行っており、6ヶ月ごとの見直しにつなげている。介護記録用紙の上部に介護計画の目標を示しており、共有して支援し、記録しやすいように工夫している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別に食事や排泄の状況を記入したり、日常の様子や会話したこと・接する中で気付いたことなどを介護記録に記入し、職員間で情報が共有できるように努めている。また、この記録をもとに介護計画の見直しや評価に繋げている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族の状況や要望に応じて、柔軟な対応が出来るよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の行事等には積極的に参加し、地域との交流を図り、安全に暮らしを楽しむことが出来るように支援している。運営推進会議には地域の方や民生委員、地域包括の方に参加して頂き、意見や情報の交換が出来る場になっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院はご家族の希望で職員が代行するようにしている。	
			(外部評価) 受診する方には職員が同行している。受診結果は、担当職員がご家族に電話で報告している。日々の利用者の健康状態を訪問看護師が管理している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々の申送りの情報や体調の変化に気をつけ、気になることや体調の変化に気付いた時は、訪看に連絡し適切な医療が受けられるように支援している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には職員が同行し、医師と話す機会を持ち、状況や状態の説明をしたり、情報提供をしたりしている。こまめにお見舞いに行き、様子を見たり、病院関係者やご家族から回復状態などの情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご本人やご家族の意向を踏まえ、尊重しながら医師や職員が連携をとり安心した最期が迎えられるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時、利用者やご家族に終末期のあり方についての意向を聞いているが、状態変化時等に再度聞き取り、利用者やご家族の希望に沿った支援に努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時に慌てずに適切な対応が出来るように、勉強会やミーティングで話し合いを繰り返している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の避難訓練に参加したり、消防署の協力の下、事業所で利用者さんと一緒に避難訓練を行ったりしている。緊急時の通報連絡のマニュアルなども定期的に確認している。	
			(外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を行っており、運営推進会議と併せて避難訓練を行った際には、地域の自主防災連合会の会長にも参加をお願いして、地震時の注意点等について説明してもらった。又、ご家族からは、「リュックを用意するのもいいと思う」等の意見があった。地域の防災訓練に職員と利用者で参加して、煙の体験や消火器の使い方を習った。法人は、全国災害支援ネットワークに加入しており、災害時には、国内のネットワークで協力し合う体制がある。備蓄はお米を少し多めにストックしている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の介護の中で職員の言葉や行動で、利用者を見下した対応をしたり傷つけたりしていないか確認し、気をつけて対応するように心掛けている。さりげないケアや言葉かけをするように努め、ご本人の気持ちを大切にしている。	
			(外部評価) トイレへの声かけ時には、耳元で小声で行うように気を付けている。何度も排泄の声かけを行うと不機嫌になる方には、「お腹痛くないですか」と聞くようにしている。「そっとしておいて欲しい」利用者の居室に入る時には、「ノックを必ずする」「入室時はいねいに挨拶する」ことを職員で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりの気持ちを大切に、ご自分で決定出来るような場面を作っている。意思表示が困難な方には、選びやすい場面作りをしながら、表情や反応から読み取るように心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調やペースに配慮しながら、本人の気持ちを尊重した生活が過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) を行っている。利用者と職員が一緒に考えたり、声かけをしたりしてその人らしさが保てるように、一人ひとりに応じた身だしなみやおしゃれの支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に買い物に行ったり、調理や片付けなどにも参加して頂くことで食事を楽しめるように支援している。 (外部評価) ユニットによっては、調理専門職員を配置して事業所で食事を作っている。冷蔵庫内の食材や利用者の希望を聞いて献立を立て、利用者と一緒に買い物に行ったり、菜園の採れたて野菜を使用している。職員も同じ食事を同じテーブルで食べながら、利用者をサポートしていた。時には、ハンバーガーや回転寿司を食べに外食することもある。普段は少食な方も外食すると、食欲が増すようだ。仲良しの利用者の方に手作り料理を振る舞い喜んでもらいたいと思っている方があり、仲良しの方の好きな食材を使ったメニューを考えて買い出しに行き、調理できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの体調や摂取量を把握するように努め、水分摂取量や栄養バランスにも気をつけている。個々に応じたものを提供するように心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声かけをして見守りを行い、自分で出来ない方は職員がケアを行うようにしている。義歯の洗浄も気をつけて行うようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの排泄のパターンを理解し、自尊心や羞恥心に配慮しながら、さりげないトイレ誘導を行うよう心掛けている。必要に応じて介助をし、トイレで排泄できるよう支援している。拒否される利用者には無理強いせず、時間を置いて声をかけたり言葉かけを工夫したりして、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の排泄パターンを把握して、声かけやトイレ誘導して支援している。トイレは、車椅子で入れる広めのトイレと一人用のトイレがある。夜間、パンツやおむつをはずしてしまう利用者があり、職員は、排泄パターンを調べて早めにトイレ介助をしたり、日勤、夜勤の申し送りを密にして原因を探りながらケアについて検討している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排泄記録を参考に、一人ひとりの便通には気をつけている。日々の食事で繊維質の多い食材を使ったり、水分補給や運動にも気を使い、便秘対策に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ゆっくり入りたい、早く終わらせたいなど、一人ひとりの入浴の習慣があるが、本人の希望に合わせて入浴出来るように努めている。利用者が気持ち良く入浴出来るように支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お風呂を毎日準備して、午前、午後の希望を聞き、利用者が一日おきに入浴できるよう支援している。お湯は午前と午後新しい湯に入れ替えている。体を洗うのに「強めにこすって欲しい」、「長風呂がいい」と言われる方には希望に沿って支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの表情や様子などを考慮しながら、横になって休息が取れるようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋をファイルに保管し、全職員が内容を把握できるようにしている。薬の処方に変更があった時には、状態の変化等の観察をするように気をつけている。服薬時には職員が見守り・確認し、誤薬や飲み忘れが無いように職員同士でチェックしている。上手く服用できない時には病院で相談し形状を変えて貰うなどして対処している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの経験やできる力を発揮できるように、役割や楽しみ等を持ってもらい、感謝の気持ちを伝えながら支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に合わせて外出をしている。買い物が好きな方は買い物に出かけたり、お花が好きな方はお花がたくさんあるコースで散歩をしたり、戸外に出かける機会を持つように努めている。 (外部評価) 朝晩、近所の池の土手を散歩することが日課になっている方がいる。利用者から買い物やドライブの希望があれば、他利用者にも希望を聞き、数名で出かけている。テレビのCMを見て利用者が八幡浜の「みなとへ行ってみたい」と希望され、行ってみたい方数名で出かけて食事もされた。外出行事を計画して、お花見やイチゴ狩り、コスモス見物、動物園等へも出かけている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に買い物に出かけ、レジで支払いを一緒に行う機会を持つようにしている。自己管理が出来る利用者には、金額をご自身で所持し、自由に買い物出来るように支援したりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙で、外部との交流が出来るように声かけをしている。電話は個人の部屋で取り次ぐなどして、周りに気を遣わなくて済むように配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節によって装飾品を変えたり、家具の配置に気をつけたりして、居心地のよい空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 周辺は田んぼが広がっており、稲の生育の様子がよく見える。玄関や廊下には、四国八十八か所のお寺の絵の額が飾られている。廊下には、行事時や外出時の利用者の笑顔の写真を掲示していた。居間には、ソファが配置してあり、昼食後に一休みする方や職員と一緒に洗濯物をたたんでいる方が見られた。菜園には、トマト、キュウリ、ナス等を育てており、利用者と職員で水やり等の世話をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげるように工夫をしている。リビングのテーブルやイスの配置に気をつけたり、廊下にイスを置いたりしてしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者が居心地良く安心して過ごせるように配慮している。馴染みの家具や寝具を持ちこんで貰ったり、思い出の写真や花を飾ったりしている。</p> <p>(外部評価) 気の合う方と部屋を共用して使用しているケースがあり、一室にソファやダンスお位牌を置き、もう一室に、ベッドを2つ並べて置いていた。居室の入り口には、それぞれ暖簾を掛けており、ドアを開けても部屋の中が丸見えにならないよう配慮している。居室で過ごすことを好む方には、生活のメリハリを付けるために、起床すると布団を上げ、就寝時に敷き、日中はできるだけ起きて活動できるような支援に取り組んでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの身体機能に合わせた環境の整備に努めている。必要な目印を付けたり、物の配置に配慮して安全に安心して過ごせるよう工夫をしている。</p>	